

5 最終需要による移輸入誘発

本項目も、前述した生産や粗付加価値の誘発と同じ考え方に基づいており、名称の通り移輸入が最終需要に左右されることに焦点を当てます。額、係数及び依存度に関する大筋はこれまで同様、県内で生産活動を行う際等に必要となる他国もしくは他都道府県の生産品、つまり移輸入の概念が生産等を通じて最終需要により決定される流れであり、令和2年の移輸入額 2 兆 4,156 億円については、最終需要 5 兆 9,853 億円により直接・間接に誘発されたこととなります。最終需要を賄うための必要額を移輸入誘発額、その各項目内訳を「最終需要項目別移輸入誘発額」と呼びます。

図表 47 を見るとこれまでの誘発額と同じく、最終需要項目の移輸入誘発額合計は県内の移輸入額計となっています。項目別でも、移輸出が最も移輸入を誘発して 1 兆 325 億円、次いで民間消費支出が 7,509 億円の順です。ただし、変化の寄与度では生産や粗付加価値の誘発と多少異なり一般政府消費支出が押し上げ要因、移輸出や民間消費支出が下押し要因です。

図表 47 県最終需要項目別移輸入誘発額の推移 (37 部門)

(億円)

	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
家計外消費支出(列)	737	635	623	739	466	565	333
民間消費支出	9,852	9,288	9,678	9,728	9,962	9,740	7,509
一般政府消費支出	746	1,229	1,366	1,459	1,672	1,879	2,020
県内総固定資本形成(公的)	1,259	1,329	1,034	804	885	1,655	1,661
県内総固定資本形成(民間)	3,850	3,645	3,278	2,898	2,856	3,299	2,413
在庫純増	143	148	44	-24	516	-560	-106
移輸出	12,152	9,564	9,477	11,853	14,627	12,826	10,325
最終需要計(県計)	28,740	25,838	25,501	27,457	30,985	29,403	24,156

(注) 一昨年において、調整項を移輸出に便宜上含めています

続いて移輸入誘発係数は、最終需要が1単位生じた際に移輸入額が増える割合を、各産業部門で一定と仮定した指標です。計算方法はこれまでの誘発係数と同様ですので、ここでは省略します。推移を示す図表 48 からは、例えば令和2年における家計外消費支出の場合、家計外消費支出が1単位増加すると移輸入が 0.491 誘発されることが分かります。なお、産業連関表の形態上、各部門計における産業計の移輸入誘発係数と前述の粗付加価値誘発係数の和は1となります。

図表 48 県最終需要項目別移輸入誘発係数の推移 (37 部門)

	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
家計外消費支出(列)	0.624510	0.500887	0.515585	0.558102	0.524535	0.520290	0.491448
民間消費支出	0.529993	0.476982	0.467871	0.478357	0.486275	0.476800	0.408994
一般政府消費支出	0.221954	0.217560	0.194544	0.201245	0.219512	0.218507	0.229817
県内総固定資本形成(公的)	0.502302	0.411112	0.427310	0.418544	0.435130	0.447371	0.453352
県内総固定資本形成(民間)	0.546660	0.560026	0.590292	0.611779	0.634907	0.568466	0.522680
在庫純増	0.836537	0.801654	0.584510	-0.390334	0.813133	0.899170	0.540547
移輸出	0.431344	0.386062	0.415760	0.442343	0.538570	0.466499	0.431299
最終需要計(県平均)	0.470955	0.422968	0.426733	0.439845	0.489377	0.442245	0.403583

(注) 一昨年において、調整項を移輸出に便宜上含めています

次に移輸入誘発依存度は、各産業の移輸入がどの需要項目によってどれだけ誘発されたものか、つまりどの項目にどれ程依存するかの比率です。生産や粗付加価値に係るこれまでの誘発依存度の考え方通り、各項目移輸入誘発額を全項目計で割ることで算出されるため、県計の1.000が100%を示す最終需要項目別移輸入誘発額の構成比となります。図表49から、令和2年における家計外消費支出を例に挙げると、移輸入額の1.4%（0.014）が家計外消費支出によって誘発されていることが分かります。

図表49 県最終需要項目別移輸入誘発依存度の推移（37部門）

	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
家計外消費支出(列)	0.025652	0.024592	0.024448	0.026900	0.015051	0.019203	0.013769
民間消費支出	0.342789	0.359467	0.379503	0.354301	0.321519	0.331255	0.310853
一般政府消費支出	0.025965	0.047551	0.053555	0.053148	0.053971	0.063913	0.083643
県内総固定資本形成(公的)	0.043822	0.051417	0.040564	0.029267	0.028552	0.056273	0.068775
県内総固定資本形成(民間)	0.133973	0.141067	0.128552	0.105558	0.092185	0.112202	0.099887
在庫純増	0.004982	0.005735	0.001743	-0.000858	0.016640	-0.019049	-0.004379
移輸出	0.422819	0.370171	0.371635	0.431684	0.472082	0.436202	0.427452
最終需要計(県計)	1.000000	1.000000	1.000000	1.000000	1.000000	1.000000	1.000000

(注) 一部年において、調整項を移輸出に便宜上含めています

ここまで述べた移輸入誘発額、係数及び依存度を、図表50で3つの産業部門に分けて示しています。移輸入誘発額の部分から、第1次産業及び第2次産業は移輸出、第3次産業は消費支出に最も移輸入を誘発されることが読み取れます。隣接する移輸入誘発係数をみると、各産業部門で最も誘発係数が高い項目は、第1次産業が移輸出で0.009、第2次産業が投資等で0.539、第3次産業が消費支出で0.248となっています。右端の移輸入誘発依存度は、第1次産業の移輸入額のうち54.7%、第2次産業の同額のうち47.1%が移輸出に、第3次産業の同額のうち78.1%が消費支出にそれぞれ依存している構図を表します。誘発額とその構成比である誘発依存度は前述した生産及び粗付加価値の誘発と同傾向ですが、移輸入については各産業部門の自給率との兼ね合いで生産活動と連動する度合いが変わるといった側面を持つため項目構成が異なっています。参考までに、産業連関表は通過取引を計上しないため、移輸入分をそのまま移輸出するような商品の動きについては記録されていません。

図表50 県最終需要項目別移輸入誘発額・係数・依存度（3部門）

	(億円)						(%)		
	移輸入誘発額			移輸入誘発係数			移輸入誘発依存度(百分率)		
	消費支出	投資等	移輸出	消費支出	投資等	移輸出	消費支出	投資等	移輸出
合計・平均	10,575	5,124	8,456	0.380015	0.633792	0.353232	43.8%	21.2%	35.0%
第1次産業	148	39	226	0.005326	0.004848	0.009438	35.9%	9.5%	54.7%
第2次産業	3,539	4,356	7,023	0.127170	0.538810	0.293373	23.7%	29.2%	47.1%
第3次産業	6,888	729	1,207	0.247519	0.090134	0.050421	78.1%	8.3%	13.7%

(注) 消費支出は家計外消費支出(列)、民間消費支出及び一般政府消費支出の、投資等は県内総固定資本形成(公的)、同(民間)及び在庫純増の合計